

株主の皆様へ

株主通信 Vol.9

2011年3月期 決算号

2010年4月1日～2011年3月31日

証券コード：4568

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。



Contents 目次

P2 社長メッセージ

第一三共の事業経営の方向性と2011年度の重点取組みについてご説明いたします。

P6 業績の概況と次期の見通し

P8 NEWS

がんと闘う患者さんとそのご家族を招待
家族のきずなシアター

会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医療用医薬品の研究開発、製造、販売など
従業員数	約30,000名(連結)

役員 (2011年6月27日現在)

【取締役】	
代表取締役会長	庄田 隆
代表取締役社長	中山 譲治
取締役	采 孟・荻田 健・廣川 和憲・佐藤 雄紀
社外取締役	沖本 隆史・平林 博・石原 邦夫・安西 祐一郎

【監査役】	
常勤監査役	小池 和夫・千葉 崇
社外監査役	山田 昭雄・石川 重明

連結子会社

101社

主要な国内事業拠点

本 社	東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
支 店	札幌、東北(宮城県)、東京、千葉、埼玉、横浜、北関東(東京都)、甲信越(東京都)、東海(愛知県)、京都、北陸(石川県)、大阪、神戸、中国(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県) ※上記の他、全国主要都市に営業所を設けております。
研究所	品川(東京都)、葛西(東京都)、袋井(静岡県)、神戸(アスピオファーマ(株))
工 場	秋田、小名浜(福島県)、館林(群馬県)、平塚(神奈川県)、 〔第一三共プロファーマ(株)〕 〔第一三共ケミカルファーマ(株)〕 小田原(神奈川県)、高槻(大阪府)、大阪
物流センター	吉川(埼玉県)、高槻(大阪府) 〔第一三共ロジスティクス(株)〕

※各情報は役員の名を除き、2011年3月31日現在のものです。

社長メッセージ

2011年6月
代表取締役社長 兼 CEO
中山 讓治

2011年度の重点取組み

- 一 国内外における既存製品の価値最大化と新薬の投入
- 二 新興国における取組み強化
- 三 研究開発領域の集中と強化

第一三共の中長期の成長を実現するための右記3点に関する取組みについて、事例を挙げて具体的に説明いたします。

【事例一】 既存製品の価値最大化と新薬の投入

(海外での取組み事例)

エフィエントの販売促進と開発

抗血小板剤プラスゲレル(欧米での製品名「エフィエント」)については、昨年10月以降、米国における販売体制を見直し、専門病院での採用促進やキーオペニオンリーダーへの積極的なプロモーションの実施といった販売促進施策を強化してまいりました。

こうした取組みに加え、主要学会のガイドラインにおいてエフィエントの使用推奨が追加されるなどの外部環境変化もあって、今、エフィエントの伸長に確かな手応えを感じています。

なお、現在のエフィエントが取得している適応範囲(ACS-PCI*)は、抗血小板剤市場全体の2割程度です。当社グループは、

(日本製品名「オルメテック」と、その配合剤を含むオルメサルタンファミリー)です。

高血圧症治療剤は国内医療用医薬品市場の約2割を占める成長市場であり、なかでもオルメサルタンは強力な降圧効果と臓器保護作用が期待できる治療剤と高く評価されています。

国内では、2010年4月に2剤配合の「レザルタス」を発売しました。単剤では十分な降圧効果が得られなかった患者さんに新たな治療の選択肢を提供する活動が、オルメサルタンファミリー全体の処方押し上げています。

2011年度には、オルメテックとレザルタスを、合わせて売上高1100億円を超える大型製品に育成する計画であり、グローバル最重要品目としての成長を、国内営業が牽引してまいります。

2011年度は期待の新薬を続々発売

2010年度には国内で4つの新製品を発売しましたが、2011年度はさらに期待の新薬の発売が続きます。

アルツハイマー型認知症治療剤「メモリー」については、6月8日に発売しました。本剤に対する医療現場からの期待は高く、大きな手応えを感じております。さらに、術後静脈血栓塞栓症の適応で4月22日に承認取得した

株主の皆様には、当社の経営にご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

皆様もご承知のように、今、日本を含む先進国市場においては、高齢化の進展と経済成長の鈍化が同時に進行しております。これらは医療財政を圧迫する要因となるため、結果として、各国で医療費・薬剤費の抑制傾向はますます強まっています。

一方、医薬品の安全性や有効性を判定する基準が世界的に厳格化し、新薬を生み出すためのハードルは高くなっております。

このような事業環境の変化を見据え、第一三共は基幹事業のさらなる強化と将来を支える事業の育成・成長に向けて、さまざまな取組みを進めております。

事業経営の方向性

- 一 イノベータータイプ医薬品(新薬)事業の強化・拡大
- 二 OTC、ワクチン、エスタブリッシュメント医薬品(後発医薬品等)事業の基盤拡充

ここでは前者(イノベータータイプ医薬品事業の強化・拡大)を中心に、2011年度の重点取組みをご紹介します。

後者の各事業は、現在、基盤拡充の段階にあり、長期的に当社業績への貢献を期待しております。

さらなる市場セグメントへの展開のため、現在、薬剤治療の急性冠症候群患者を対象とした適応追加を目指すTRILOGY試験を実施しており、2012年第1四半期の終了を目指しております。

*ACS-PCI:経皮的冠動脈形成術を行った急性冠症候群

【事例二】 既存製品の価値最大化と新薬の投入

(国内での取組み事例)

オルメサルタンファミリーの育成

中長期にわたり当社グループの業績を支える柱の1つが、高血圧症治療剤オルメサルタン

※日本でのエスタブリッシュメント医薬品事業では2010年10月より第一三共エスファ株式会社、ワクチン事業においては2011年4月より北里第一三共ワクチン株式会社、それぞれ営業を開始いたしました。

投資回収期間の長いイノベータータイプ医薬品事業を進展させるためには、売上と収益性の向上によって、投下資金の回収と研究開発等の原資確保を図ることが不可欠です。その実現に向けて、現在、当社グループでは、既存製品の価値最大化(適応症拡大等のライフ・サイクル・マネジメント)はもちろん、成長著しい新興国市場(特にインド、中国)における取組みも強化しております。

また、持続的な企業成長のため、研究開発領域の集中と強化を通じたパイプラインの充実にも重要課題として注力しております。



「リクシアナ」(一般名エドキサバン)、アストラゼネカ社から導入したプロトンポンプ阻害剤エソメプラゾール(グローバル商標「ネキシウム」)、アムジェン社から導入した癌骨転移治療の適応でのデノスマブも、新製品として年度中の発売を期待しており、多くの有力な新薬を、連続して市場投入していくこととなります。

当社グループは、現在、国内MR数2400名と業界トップクラスの営業組織を誇り、質の面でも現場の医療機関から高い評価を頂戴するなど、高い水準の営業資産を有していると自負しております。私たちはこれらの資産をフル活用し、最適なプロモーションシフトを行うことで、国内ナンバーワンの地位の確立を目指してまいります。

■ 国内イノベティブ医薬品事業の強化・拡大

営業力の最大活用

- 国内トップクラスのMR2,400名体制の最適配置により、売上の極大化を図る

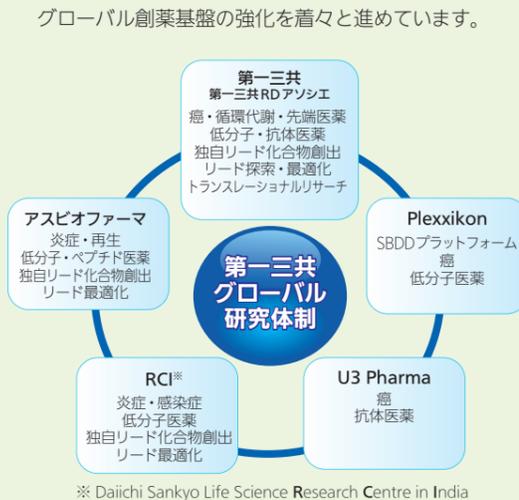
オルメサルタンの最大化

- 国内1,100億円の大型製品へ育成(2011年度計画/オルメテック+レザルトス)
- 前期比26%超の成長

新薬の連続投入

- ▶2010年度
 - ・4品目(レザルトス、ロキシニンゲル、イナビル、クラビット点滴静注)
- ▶2011年度
 - ・メマリ-発売(6月8日)、リクシアナ承認取得(4月22日)、エソメプラゾール、デノスマブ

■ グローバル研究体制



皆様へのメッセージ

2011年度は、第2期中期経営計画の2年目に当たります。当社グループは2012年度の計数目標を重要かつ必達の通過点としてとらえるとともに、さらに長期的な成長を実現させるための取組みも強化し、企業理念である「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品の提供」を続けてまいります。

株主の皆様には第一三共の挑戦にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災による供給への影響

皆様にご心配をおかけいたしましたでしたが、これ

【事例三】 新興国における取組み強化
インド市場

ランバクシーは、成長著しいインド市場においてさらなる事業拡大を図るべく、昨年より営業要員数の増強や製品ラインアップの拡充などの取組みを強化しています。同社は、本年5月に発表した第1四半期決算において、インド国内で前年比プラス17%の成長を果たしたと発表しました。これはIMSベースの市場の伸びを4%上回るものであり、成果は着実に始めていると言えます。

中国市場

中国の医薬品市場はここ数年、年率20%と驚異的な伸びを見せております。当社グループは、現在、北京と上海に事業拠点を有しておりますが、今後はこれらの拠点と営業力はもちろん、外部資源(導入、提携、M&A等)も活用し、2015年度の売上高水準を現在の約4倍の30億元(日本円で約400億円)まで拡大させる計画です。

【事例四】 研究開発領域の集中と強化
癌領域のパイプラインを強化

当社グループは、癌領域パイプラインの強化を進めております。

までの対応により主力製品の安定供給は可能と判断しております。

・プラバスタチンについては、輸出分も含め安定供給可能な在庫を保有しており、原薬を製造する小名浜工場についても本年9月より生産再開を見込んでおります。

・オルメサルタンの原薬は小田原・小名浜の両工場生産しておりますが、メイン工場である小田原工場での生産量を拡大することで対応しております。

・オルメサルタン等主力品の最終製品(製剤)を生産する平塚工場では、休日作業の実施による必要数量確保や他工場(高槻・パツフェンホーフェン)でのバックアップ生産などの諸施策を実施しています。

・「メマリ-」については安定的な供給体制を確保し、本年6月8日に発売しました。

■ 各工場の対応スケジュール



TOPICS

震災の被害に対し、義援金の拠出とマッチングギフトを実施いたしました

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

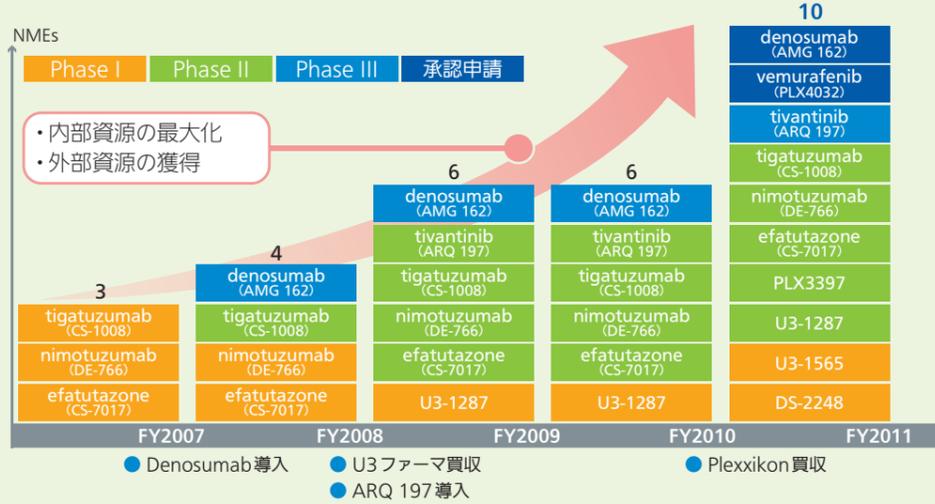
当社グループでは、震災による被害に対し1億円の義援金を拠出するとともに、マッチングギフト*を実施し、当社グループ社員から寄せられた義援金 36,709,302 円に、

会社として 45,619,558 円の寄付金を加え、合計 82,328,860 円を、日本赤十字社および各国赤十字社等を通じて、寄付いたしました。

当社グループ社員より	36,709,302円
会社として	45,619,558円
マッチングギフト合計	82,328,860円
義援金	100,000,000円
合計	182,328,860円

*社員の募金寄付と同額を会社も寄付する制度

■ 図表1: 癌領域における着実な成長



2008年のU3ファーマ買収やARQ197の導入などの施策、さらにはこの度のPlexikion Inc. 買収により、癌領域パイプラインは確実に充実してまいりました(図表1)。今後も低分子および抗体医薬の両面から、適応癌種の拡大など化合物のポテンシャルの最大化と合わせて、一層の充実を進めます。

財務データ (抜粋)

(単位: 億円)			
	2010年度	2009年度	2008年度
売上高	9,674	9,521	8,421
営業利益	1,221	955	888
経常利益	1,318	1,031	551
当期純利益	701	419	△215
研究開発費	1,943	1,968	1,845
純資産	8,877	8,895	8,886
総資産	14,802	14,895	14,946

営業利益のポイント

国内医薬品事業では既存品の売上伸長や新製品の寄与による増益が薬価改定の減益影響を上回り、海外事業においてもランバクシー分を含む増益がレボフロキサシンの輸出減少等の影響を大幅に上回りました。

当期純利益のポイント

経常利益段階までの増益要素以外に、特別損失の増加や法人税額の減少があり大幅増益となりました。

研究開発費のポイント

主要開発プロジェクトの推進に加え、癌と循環代謝を重要な研究領域と定め、研究開発パイプラインの充実も図っております。売上高に対する研究開発費の比率は20.1%となりました。

経常利益のポイント

営業利益段階までの増益要素以外に、ランバクシーのデリバティブ評価損益や為替差損益の改善が寄与しました。

1株あたりデータ (単位: 円)			
	2010年度	2009年度	2008年度
当期純利益	99.6	59.5	△304.2
配当金	60.0	60.0	80.0
純資産	1,206.1	1,215.6	1,226.0

主要会社・主要製品別売上高

第一三共 (単位: 億円)			
	2010年度	2009年度	2008年度
オルメテック (高血圧症治療剤)	823	772	644
ロキソニン (消炎鎮痛剤)	542	470	387
メパロチン (高コレステロール血症治療剤)	381	462	507
クラビット (合成抗菌剤)	324	436	430
オムニパーク (造影剤)	250	273	283

第一三共 Inc. (米国) (単位: 億円)			
	2010年度	2009年度	2008年度
ベニカー/ベニカー HCT (高血圧症治療剤)	797	889	874
エイゾール (高血圧症治療剤)	133	128	87
トライベンゾール (高血圧症治療剤)	15	—	—
ウェルコール (高コレステロール血症治療剤/2型糖尿病治療剤)	285	275	245
エフィエント (抗血小板剤) ※共同販促収入	34	1	—

ルイトポルド・ファーマシューティカルズ Inc. (米国) (単位: 億円)			
	2010年度	2009年度	2008年度
ヴェノファー (貧血治療剤)	307	322	320

第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州) (単位: 億円)			
	2010年度	2009年度	2008年度
オルメテック/オルメテックプラス (高血圧症治療剤)	367	399	375
セビカー (高血圧症治療剤)	84	63	22
セビカー HCT (高血圧症治療剤)	11	—	—

2012年3月期 連結業績予想

売上高	9,700億円	前期比 26億円↑ (0.3%↑)
営業利益	900億円	前期比 321億円↓ (26.3%↓)
経常利益	900億円	前期比 418億円↓ (31.7%↓)
当期純利益	450億円	前期比 251億円↓ (35.8%↓)
1株当たり配当金	60円	

日本および欧州でのオルメサルタンの成長持続、日本における新製品の発売等で増収を図るものの、米国で独占販売期間満了を迎えるレボフロキサシンの輸出減少や日本国内の販売権返還、ランバクシーの減収等もあり、連結売上高は9700億円(前期比0.3%増)を見込みます。営業利益では、新製品発売に伴う販売促進費の増加や高水準の研究開発費、Plexikon Inc.の買収に伴う負担増などにより900億円(前期比26.3%減)を見込みます。震災に伴う特別損失は減少しますが、当期は事業再編に伴い一時的に税金費用が減少したこともあり、当期純利益は前期比35.8%減の450億円を見込んでおります。配当につきましては、成長のための投資、社債の償還準備、株主還元などを総合的に勘案したうえで配当を安定的に維持する方針のもと、1株当たり年60円を予定しております。

次期の見通し

業績の概況と次期の見通し

売上高

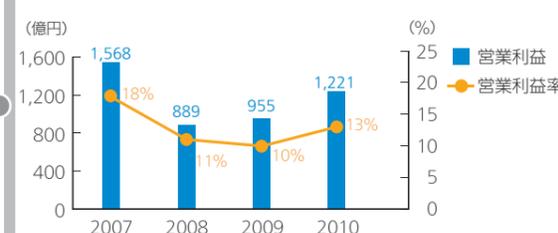
前期に比べ円高が進行したものの、子会社のランバクシーの売上高1719億円の寄与や高血圧症治療剤オルメサルタンおよび消炎鎮痛剤ロキソニンブランドの伸長、新製品の発売などにより、連結売上高は前期比1.6%増の9674億円となりました。

利益

ランバクシーの寄与に加え、円高に推移した為替の影響で海外子会社における販売費および一般管理費が減少し、為替差損も減少したことを受け、営業利益は前期比27.9%増の1221億円、経常利益は前期比27.8%増の1318億円と大幅な増益となりました。

当期純利益につきましても、前期において過年度の修正により当期に比べ法人税等が高い水準となっていたことなどもあり、前期比67.5%増の701億円と大幅な増益となりました。なお、東日本大震災により損傷した設備の復旧費用など、災害による損失56億円を特別損失に計上しました。

■ 営業利益/営業利益率



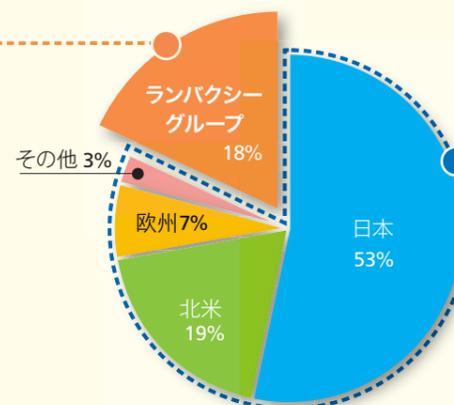
■ 売上高/海外売上高比率



グループ別業績

第一三共グループの業績

第一三共グループの売上高は、7,954億円(前期比1.3%減)となりました。



ランバクシーグループの業績

ランバクシーグループの売上高は、米国における抗ウイルス剤パラシクロピルの売上などが寄与し、1,719億円(前期比17.3%増)となりました。

日本

日本の売上高は5,171億円(前期比0.5%減)となりました。国内医薬では、高血圧症治療剤「オルメテック」、ロキソニンブランドなどの売上が拡大し、また、当期に新発売した「レザルタス」および「イナビル」などの寄与もあり、売上高は4,291億円(前期比1.9%増)となりました。輸出医薬では、合成抗菌剤レボフロキサシンの減少や円高の影響などにより、売上高は399億円(前期比20.7%減)となりました。ヘルスケア(OTC事業)では、総合感冒薬レルシリーズの伸長と当期に新発売したスイッチOTCの消炎鎮痛剤「ロキソニンS」などの寄与により、売上高は448億円(前期比2.6%増)となりました。

北米

北米の売上高は、円高の影響を受け、1,844億円(前期比0.4%減)となりました。なお、現地通貨ベースでは、高血圧症治療剤「エイゾール」、高コレステロール血症/2型糖尿病治療剤「ウェルコール」、貧血治療剤「ヴェノファー」などが引き続き伸長していることに加え、新発売の高血圧症治療剤「トライベンゾール」、2009年12月にルイトポルド・ファーマシューティカルズ Inc.が買収したファルマフォース Inc.の寄与もあり、増収となりました。

欧州

欧州の売上高は、高血圧症治療剤「オルメテック」、「オルメテックプラス」、「セビカー」が現地通貨ベースで伸長しているものの、円高の影響を受け、665億円(前期比11.6%減)となりました。

その他の地域

その他の地域の売上高は、中国、韓国、ブラジルなどにおける売上増加により、274億円(前期比6.4%増)となりました。

NEWS

がんと闘う患者さんとそのご家族を招待

家族の きずなシアター

劇団四季のミュージカル
『サウンド・オブ・ミュージック』に
合計 74 組 206 名の方をご招待いたしました。



闘病生活は患者さんだけでなくご家族も心身ともにつらいものです。このミュージカルで少しでも心が晴れることを願っています。

渡 哲也さん

また、公演後は会長の庄田、社長の中山による主催者挨拶に続き、初日の7月25日には当社の企業CMに登場いただいている渡哲也さんも駆けつけ、熱い激励の言葉が贈られました。

第一三共は、昨年7月25日、8月1日・8日の3日間にわたり、病(がん)と闘う患者さんとそのご家族を招待する「第一三共 Presents 家族のきずなシアター2010」を開催しました。このプログラムは、病(がん)と闘う方々とそのご家族にミュージカルを通じて感動と勇気を伝えたい、という思いから劇団四季と共同で企画し、NPOジャパン・ウェルネスの支援のもと実現したプロジェクトです。

今回、「家族愛」や「平和への希求」をテーマとした劇団四季のミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』に合計74組206名の方を招待し、ボランティアスタッフとして全国より集まった第一三共グループ社員が受付や会場内誘導などのサポートを行いました。

株式の状況

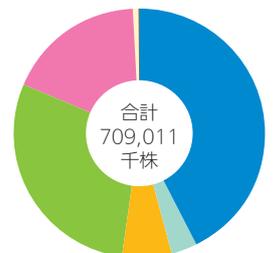
発行可能株式総数 2,800,000,000株
発行済株式の総数 709,011,343株 (自己株式5,097,302株を含む)
株主数 114,824名

株主名簿管理人連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711(通話料無料)

所有者別株式分布状況

	持株数(千株)	持株比率(%)
政府および地方公共団体	4	0.00
金融機関	302,467	42.66
金融商品取引業者	22,558	3.18
その他の法人	45,954	6.48
外国法人等	207,324	29.24
個人その他	125,601	17.72
自己株式	5,099	0.72



※各情報は2011年3月31日現在のものです。

つくっているのは、希望です。

第一三共株式会社

〈お問い合わせ先〉 コーポレートコミュニケーション部 TEL.03-6225-1125 / FAX.03-6225-1132
〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号 <http://www.daiichisankyo.co.jp/>